

学校法人長崎総合科学大学

2020－2024 年度（令和2-6 年度）

中期経営計画

2020年（令和2年）4月

目 次

	頁
1. 学校法人長崎総合科学大学	3
2020－2024 年度中期経営計画の策定にあたって	
2 本学園の「建学の精神」と「大学の理念」	4
3. 基本構想	5
4. 基本方針	
4.1 教育の質的転換とその実質化	5
4.1.1 教育体制	5
4.1.2 教育の質の保証と情報公開	5
4.1.3 社会連携と地方創生への貢献	6
4.2 財務基盤の確立	7
4.2.1 募集活動のさらなる展開	7
4.2.2 寄付金や補助金など外部資金の獲得	7
4.2.3 事業活動収支の改善に向けた合理化と効率化	7
4.2.4 同窓会・後援会・産業界との連携強化	7
4.3 中期計画を着実に遂行するための組織ガバナンス強化	7
4.3.1 理事長・学長・校長を中心としたスピード感のある施策決定	7
4.3.2 PDCA サイクルによる経営改善計画の推進	7
4.3.3 FD・SD の推進による組織力の強化	7
5. 目標と具体的施策	
5.1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標と対応	8
5.1.1 教育内容及び成果等	8
5.1.2 教育の実施体制	14
5.1.3 学生への支援	19
5.1.4 入学者選抜方法	26
5.2 研究の推進	
5.2.1 研究水準及び研究の成果の目標と対応	29
5.2.2 研究実施体制	31
5.3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する 目標と対応	33

5.4 グローバル化に関する目標と対応	36
5.5 組織運営の改善に関する目標と対応	41
5.5.1 大学組織の見直し	41
5.5.2 教育研究組織の見直し	44
5.5.3 事務等の効率化・合理化	45
5.6 財務内容の改善に関する目標と対応	47
5.6.1 経常収支・資金収支の健全化	47
5.6.2 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加	48
5.6.3 経費の抑制	50
5.6.4 資産の運用管理	51
5.7 自己点検・評価及び当該状況に係る情報提供に関する目標と対応	53
5.7.1 自己点検の充実	53
5.7.2 情報公開や情報発信等の推進	56
5.8 施設設備の整備・活用等に関する目標と対応	57
5.9 附属高校に関する目標と対応	59
5.9.1 教育の質的転換	59
5.9.2 地域社会との連携	61
5.9.3 グローバル化に対する対応	62
5.9.4 財務内容の改善	63
5.9.5 自己点検・評価の実地	65
5.9.6 情報公開の推進	66
5.10 その他の目標と対応	69
5.10.1 安全管理に関すること	69
5.10.2 情報セキュリティに関すること	71
5.10.3 法令遵守等に関すること	72
5.10.4 男女共同参画推進に関すること	74

1. 学校法人長崎総合科学大学

2020－2024 年度中期経営計画の策定にあたって

本学園は、第1期中期経営計画（2010-2014 年度（平成22 - 26 年度））並びに経営改善計画（2013 年（平成25 年）策定）に沿って、従来の学部学科、教育課程などを抜本的に再編し、2014 年度より、2 学部2 学科8 コース制を導入するとともに、附属高校のシーサイドキャンパスへの全面移転を実施するなど、新たな学園づくりの第一歩を踏み出しました。

第2期中期経営計画（2015-2019年度（平成27-令和元年））は、急速な人口減少や地域経済の沈滞など、地方私立大学をとりまく経営環境は一段と厳しさを増しており、本学の70 有余年の伝統を継承し、再生を図っていくためには、教職員全員が危機意識を共有しつつ、直面する課題を的確に把握・分析し、中長期的視点に立って、その解決に向け、戦略的に取り組んでいく必要があります。

第2期の成果：

- ・コース制の導入とカリキュラムの改編・充実
- ・九州西部地区の大学等によるプラットフォームを形成し、地域活性化へ貢献
- ・教員の補充による研究部門の機能・組織の強化
- ・国際担当部署の設置し、アジアに目を向けたグローバル化戦略の推進
- ・I R機能と体制の整備と経営執行体制の強化

第3期の目標：

- ・学修者が成長を実感できる大学を目指した教育の質的転換とその実質化
- ・持続的な発展に必要な財政基盤の確立
- ・安定的な経営、教学運営を支える組織ガバナンス強化

この中期経営計画は、変革の時代の潮流を的確に捉え、社会の変化に柔軟に対応しつつ、本学の再生とさらなる進化を図るための具体的かつ実施可能な行動指針であり、これをもとに、今後、それぞれの課題ごとに年度毎のより詳細かつ実施可能な工程表（アクションプログラム）を策定し、PDCAサイクルにより着実に実行していかうとするものであります。

2020年（令和2年）4 月

学校法人長崎総合科学大学

理事長 立石 暁

2. 本学園の「建学の精神」と「大学の理念」

本学園は「建学の精神」として、

自律自彊 (Self-sufficiency and Effort) 〔自己の確立〕

実学実践 (Pursuit of Practical Science) 〔ものづくりとしての実行力〕

創意創新 (Originality and Creativity) 〔ものまねでない新技術の開発力〕

宇内和親 (World Peace) 〔世界的視野の保持〕

を定め、

また、「大学の理念」として、

「人類愛の存するところ技術への愛もまた存する」

(Where there is human love, there is love for technology)」

を掲げています。

本学園が行うすべての教育研究活動は、基本的にこれらの精神並びに理念を根幹に据えたものであり、この中期経営計画も、根本において、「建学の精神」並びに「大学の理念」の実現を図るための具体的行動指針であり、実践プログラムとして策定するものであります。

3. 基本構想

建学の精神を基盤とし、学生目線の教育を展開する「成長を実感できる大学」

4. 基本方針

4.1 教育の質的転換とその実質化

学修者が「何を学び、身につけることができたか」を実感できることに主眼を置き、予測不可能なこれからの時代を生き抜く力を育成するため、重点戦略を掲げ全学的に取り組めます。

4.1.1 教育体制

学生・生徒一人ひとりの学びを尊重したサポート

- ・学生・生徒一人ひとりの個性や適性に対応した教育を実践し、各々の学びをきめ細かにサポートしていきます。

多様な学生の受入れ

- ・女子学生や留学生など多様な人材を積極的に受け入れ、産業社会に貢献できる実践力や自主的に学ぶ姿勢を培います。特に「理系女子」の受け入れ体制の充実を図ります。
- ・社会人のリカレント教育や産業界と連携した学び直しなど、社会が求める教育の在り方、仕組みや環境整備を図ります。

多様な教員

- ・実務家、若手、女性、外国籍など様々な人材を登用し、教育への仕組みづくりを見直します。
- ・教員が多様な教育研究活動を行うための仕組みや環境整備を図ります。

多様で柔軟な教育プログラム

- ・多様な学生を受入れのため、コースの再編
- ・学部・修士課程の一貫した教育プログラムの検討
- ・文理横断・技術分野横断的な学修の幅を広げる教育
- ・社会の変化に応じた迅速かつ柔軟なプログラム編成
- ・複数の大学等の人的・物的資源の共有
- ・ICTを活用した教育や Society5.0 に向けた人材育成

本学の「強み」の強化

- ・少人数教育による「モノづくり人材」の育成の徹底
- ・先端科学技術に関する教育・研究の推進

4.1.2 教育の質の保証とその実質化

学修者本位の教育の実現に向けた教学マネジメントの確立

- ・前項「教育体制」を実現するため、教学面における改善・改革に取り組むための指針を作成します。

学修成果の可視化と情報公表の促進

- ・単位や学位の取得状況、学生の成長実感・満足度、学修に対する意欲等の情報を適切に可視化し、公表する。
- ・教育成果や大学教育の質に関する情報の把握・公表の義務付け
- ・全国的な学生調査や大学調査により整理・比較・一覧化

4.1.3 社会連携と地方創生への貢献

社会に関かれ、外に向かって発信する大学にします。

- ・教員一人ひとりが社会貢献のための研究を積極的に行い、その成果を広く公表します。
- ・社会に関かれた大学として、国や地方自治体、企業、他大学などとの連携を強めるとともに、学び直しの機会の充実を図り、社会人や地域の人々に利活用していただく大学にします。

東長崎地域の「知」の拠点を形成するとともに、アジアに目を向けた国際連携を積極的に推進します。

- ・東長崎の地に根づいた教育・研究・社会貢献を進めていきます。
- ・発展途上にあるアジアに目を向け、積極的に国際連携（グローバル化戦略）を進めていきます。
- ・東長崎とアジアをつなぐ、いわゆる“グローバル”な教育・研究機関としての役割を担っていきます。

九州西部地区の大学・自治体・産業界と連携したプラットフォームを形成することにより、活気と魅力ある地域社会の創出に貢献します。

- ・「九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム」に参画しており、参画機関と連携・共働して事業の推進に努めます。プラットフォーム事業は、第1期は2023年3月まで、第2期は2023年4月から2028年まで続きます。
- ・本事業では、各大学の人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完することで、教育の質の向上を図るとともに、産業界のニーズを汲み上げ、自治体と連携して地域の活性化を推進します。

地域で活躍する学生の主体的活動への支援・協力

- ・「ものづくり」を通じた科学技術の啓蒙活動や地域が抱える諸問題を解決していくゼミ、卒業研究など学生の主体的な活動を支援します。
- ・スポーツ、文化、ボランティア活動など学生の主体的な活動を支援します。

4.2 財務基盤の確立

本法人が持続的な発展に必要な財政基盤の確立に向けて取り組みます。

4.2.1 募集活動のさらなる展開

- ・全てのコースで入学定員 1.0 以上の入学生を確保するため、教育の質の向上を中心とした学修者目線の諸施策を確実に推進します。
- ・募集活動の基本は、本学の本当の姿を理解してもらうことであり、高校訪問を中心としたさまざまな手段による募集活動に取り組みます。
- ・広報の体制を強化し、ホームページのリニューアルなど、より効果的な広報活動に取り組みます。

4.2.2 寄付金や補助金など外部資金の獲得

- ・安定的で継続的な収入確保に向け、競争的資金や寄付金の獲得に取り組めます。
- ・受託研究や、共同研究、奨学寄付金の獲得に取り組めます。

4.2.3 事業活動収支の改善に向けた合理化と効率化

- ・人件費や、奨学費など財政を圧迫する経費の見直しを行うとともに、教育に係る原資計画を見直し、教育の質的転換などの政策的な財政投下を行う仕組みを構築し、合理化、効率化を図ります。
- ・ペーパーレス化の導入などの事務作業の合理化、効率化を図ります。

4.2.4 同窓会・後援会・産業界との連携強化

- ・同窓会のネットワークを活用し、協働での募集活動を強化します。
- ・後援会の支援を受けて、主体的に活動する学生の支援をします。
- ・産業界と連携し、人材育成の仕組み作りを促進します。

4.3 中期経営計画を着実に遂行するための組織ガバナンス強化

理事長・学長・校長のリーダーシップを支える安定的な経営や教学運営を確立し、各種施策に取り組めます。

4.3.1 理事長・学長・校長を中心としたスピード感のある意思決定

- ・経営・教学の機関が一体となり、機動的に対応する仕組みを強化します。
- ・学長のリーダーシップを支える補佐体制を充実、強化します。

4.3.2 PDCA サイクルによる中期経営計画の推進

- ・中期経営計画を着実に遂行するため、PDCA サイクルを確立し、計画の推進を図ります。

4.3.3 FD・SD の推進による教職員一丸となった組織力の強化

- ・法人を取り巻く社会情勢や環境の中で、法人が置かれた現状を共有し、教職員が一丸となって諸課題に取り組むことで、組織力の強化を図ります。

5. 目標と具体的施策

基本方針を具現化するための目標と具体的施策を定め、全教職員が情報を共有し一丸となって取り組むために可視化し、目標の実現を図ります。

5.1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標と対応

5.1.1 教育内容及び成果等

[illegible]

【目標１】 コースの再編、及び学部・大学院修士課程の一貫した６年間の教育により、産業界が求める高度かつグローバルな技術者を育成するとともに、研究開発能力を有する人材を育成する。

《対応 1-1》 学部/学科・コースや大学院の専攻の見直しについては、建学の精神に則って、産業界が求める技術者および研究者の育成に際して柔軟に対応する。

【所管所属：教学企画運営会議、自己点検評価実施委員会、IR委員会、
全学教授会、代議員会、工学研究科教授会】

《対応 1-2》 産業界で活躍する OB や OG 等の講話などを用いて、社会の発展に貢献する意志、グローバルに活躍する視点、及び産業人として必要な技術・能力・責任感についての認識を高める教育を実施する。また、この過程で、大学院までの一貫教育の重要性も併せて周知する。

【所管所属：教務専門委員会、教務課、学生課キャリアセンター、
工学研究科教授会】

《対応 1-3》 大学院修士課程の学生については、「工学分野の専門知識を持ち、新たな技術を創出する高度専門技術者」を育成するため、課題発見・専門的課題・解決等に関する国内外の研究者・技術者とのコミュニケーション能力を強化する。

【所管所属：工学研究科教授会】

《対応 1-4》 大学院博士課程の学生については、「幅広い分野で深い専門知識と優れた研究能力を持ち、課題探求・学術研究や新たな産業分野の創出をけん引するイノベーション・リーダー」を育成する。

【所管所属：工学研究科教授会】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①卒業生の能力評価に関する企業等アンケート結果	①能力が向上したとの回答の増加
②学生の成績等評価の状況(単位修得状況、進級・卒業状況、GPA 等)	②成績等評価の向上
③学生に対する教育内容の理解度、満足度等に関するアンケート結果	③理解度・満足度の上昇
④学生の学修時間とその質	④学修時間と質の向上(成績等評価に反映)
⑤学部卒業生の地元就職率	⑤全就職者の40%以上
⑥各分野の教育目標に掲げた人材像に沿った進路先への就職状況	⑥人材像に沿った進路先への就職率の向上
⑦修士課程への進学率	⑦全卒業生の2%以上
⑧学会参加率、論文投稿率	⑧学会発表率5%以上増
⑨他専攻、他系列科目履修率	⑨他系列科目他履修率10%以上
⑩学位の授与状況	⑩80%以上
*共同研究参加率	*共同研究参加率10%増

■スケジュール

対応	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対応1-1					
対応1-2					
対応1-3					
対応1-4					



【目標2】 「初年次教育」を充実し、基礎学力を身につけ、主体的に問題を解決する能力と広い視野を有し、専門的な技術者として産業界で活躍できる人材を育成する。

《対応 2-1》 学生の基礎学力の差を補う「入学前教育」や「補習教育」および「初年次教育」において、学生個々に合わせた能力と意欲の向上を図るべく学修支援環境(e-ラーニングの活用等)を検討する。

《対応 2-2》 構築したカリキュラムは、学生の成績や授業評価アンケートおよび社会人アンケートを基に毎年検証し、必要に応じて見直しを行う。

《対応 2-3》 習熟度別クラス編成が難しい科目においても、学生個々の能力に応じた学修支援環境(e-ラーニングの活用等)を整備する。

《対応 2-4》キャリア教育支援
 学生が卒業後に自らの資質を向上させ、自身の「ありたい姿」「あるべき姿」の人生目標をしっかりと定め、社会的・職業的自立のために必要な能力（キャリア形成）を養うことができるようサポートする。

《対応 2-5》キャリアセンター事業の推進

- 1) 低学年次からのキャリアガイダンスとして、企業から OB・OG を招き社会へのアプローチの講話の内容を充実させ、学生の積極的な参加を促進する。
- 2) 学内での合同企業説明会を、地域や業種等に分類した企業に参加してもらい、「仕事研究セミナー」・「企業研究セミナー」として実施する。

《対応2-6》インターンシップ及び企業見学（訪問）の充実

- 1) 各業種・業界及び県内企業を大学生活の早い時期に知る機会として、学生の企業見学会等を地域企業と連携して実施する。（1 day・2 day インターンシップの活用）
- 2) 地域企業等と連携したインターンシップ制度の推進・拡充し自らの専攻や希望する職種に関連した就業体験ができるよう、充実を図る。

《対応 2-7》人間形成促進
 学生の人間形成に資する講話等（「企業人メッセージ」等）を開催し、学生の積極的な参加を促進すると共に社会を知り企業を知り、活発な課外活動参加への支援を行う。

10

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①学修支援環境整備 ②カリキュラムの検証 ③学内を含む中期インターンシップ体験者の増加 ④長期インターンシップ体験者の増加 ⑤就職内定率 ⑥県内企業就職率 ⑦低学年次からのキャリア教育の実践とキャリア支援事業への参加 ⑧インターンシップへの学生参加率 ⑨卒業生アンケートによる大学満足度高比率	①環境構築 ②毎年の実施 ③受講率 80%以上。体験率 60%以上 ④インターンシップ先の確保と、カリキュラム調整 ⑤100% ⑥45%以上 ⑦60%/年 ⑧30%/年 ⑨80%以上

■スケジュール

対応	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対応2-1					
対応2-2					
対応2-3					
対応2-4	  	  	  	  	  
対応2-5	  	  	  	  	  
対応2-6	  	  	  	  	  
対応2-7					

【目標3】 多様な学習歴を持つ留学生に対する基礎教育を充実させ、日本人学生も含めて多様な産業界で活躍できる人材を育成する。

《対応3-1》 留学生向けの基礎教育においては、多様な学習歴を考慮した学修支援環境(e-ラーニングの活用等)を日本語別科と連携して整備する。

【所管所属：国際交流専門委員会、国際班、工学研究科、教務専門委員会、
教務課、日本語別科】

《対応3-2》 多様な産業界で活躍できる人材を育成するために、学生の海外研修の機会を海外機関や民間機関と連携して提供する。

【所管所屬：國際交流專門委員會、國際班、教務專門委員會、教務課】

《対応 3-3》 多様な産業界で活躍する人材となるために、英検 IBA を基にした「NiAS 英語教育プログラム」を構築し、全学生を対象に教育する。（英検 IBA テストを継続して実施し、スコアを基にクラス分けによる講義を実施する。能力別に履修コースを分けて入学時から高い能力がある学生に対しては演習科目を多く履修できるようにする。）

【所管所屬：教務專門委員會、共通教育部門、教務課】

評価指標	指標に係る目標
①多様な学習歴を考慮した学修支援環境整備	①学修支援環境の構築
②海外研修の学生数	②20人以上／年
③NiAS 英語教育プログラムの構築と実施	③教育プログラムの受講率80%以上
④英検ⅠBAテスト平均点	④50点以上アップ

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 3-1					
対応 3-2					
対応 3-3					

【目標4】 組織的な教育の実施と教育課程の体系性向上により、大学教育を質的に改善するとともに、新たな教育内容・教育方法に対応できるよう教育環境の整備を進める。

《対応 4-1》 本学でのほとんどの開講科目に能動的学習(アクティブラーニング)を取り入れ、教育内容や方法の改善に努める。(講義内容に演習等の要素を取り入れ、アクティブラーニングを実施する科目を段階的に増やしていく。)

《対応 4-2》 課題発見解決型学習(PBL*)科目も取り入れ、学生(個人やグループ)の学習活動に利用できる物理的な学習室(学習支援センターや図書館内)や、ネットワーク上での学修支援環境を整備する。

*PBL（Project Based Learning）：問題解決型学習、学生の興味、関心、能動性を引き出しながら答えに辿り着く過程を重視した教育手法

(現在、学習支援センターには数学担当講師のみが配置されているため、水木金の利用しかできない。英語の担当講師も配置し週間を通じて利用できるようにし、自学習のスペースとして活用を促す。)

評価指標	指標に係る目標
①アクティブ・ラーニングを取り入れた開講科目数	①全開講科目数の 80%以上
② PBL 科目の必修化	②全学科・コースにて 1 科目以上必修
③物理的な学修スペースの設置	③学修支援センターや図書館等に設置
④ネットワーク上の学修支援環境の整備	④学修支援環境の整備

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 4-1					
対応 4-2					

5.1.2 教育の実施体制

[illegible]

【目標5】 本学の教育研究活動について、ミッションの再定義を通して明らかになった強みと特色を活かして、教育研究活動を効果的に実施するため、多様な人材を戦略的に配置する。

[illegible]

《対応 5-1》 教員の採用にあたっては企業等経験者や外国人、若手、女性の雇用を促進する。

【所管所属 学務政策課】

《対応5-2》 教員の分野を横断する活用により、教員間の連携を促進するとともに、教員の分野を超えた共同指導体制を展開する。

【所管所属 学務政策課】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①企業等経験者や外国人、若手（45 歳未満）、女性の教員の割合	①若手40%、女性教員20%
②若手教員の研究を支援する予算配分	②若手教員対象の学内公募による予算配分
③分野横断的なコース、プログラムの設置	③コース再編を念頭に置いたプログラムを全コースに設置
④複数教員グループによる研究促進	④専任教員数／3以上の研究グループ

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 5-1					
対応 5-2					

【目標6】 グローバルな人材の養成に適した教育・学習環境を整備するとともに、ICTを活用した多様な教育・学習の機会を提供し、学生が能動的に学習しやすい環境を整備する。

《対応 6-1》 パソコン必携化に伴い、Google Classroom や e-ラーニングなどの ICT を活用した学修支援環境を整備する。その環境下では、講義資料・教材・課題等の提供やレポート・小テストの回収採点などを実施する。

(活用方法の検討を行いシステム構築、情報機器及び環境整備)

《対応6-2》 パソコン必携化に伴い、PCを積極的に活用するように、授業の実施方法の改善をさらに進める。これに伴い必要な、システム構築と環境整備を行う。

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①開講科目での学修支援環境の活用	①全開講科目中 80%以上
②開講科目での授業でのPC 活用	②全開講科目中 60%以上

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 6-1					
対応 6-2					

第2期（2023年度～2028年度）

■課題の数値目標

九州西部地域大学・短期大学産学官連携プラットフォーム 第2期 令和5年～令和9年	本学 令和5・6年
①QSP 科目群としての授業の提供、または共同開発（期間中に5科目以上）	
②共同 SD・FD（短大系含む）の実施（期間中に15回以上）	4回
③共同研究の実施（期間中に10件以上）	
④共同 IR による共通調査等の実施（期間中に5件以上）	2件
⑤高大接続事業（共同訪問、共同説明会等）の実施（期間中に5件以上）	2件
⑥地元就職支援に係る地元企業との連携事業（期間中に5件以上）	2件
⑦リカレント教育の講座等の実施（期間中に10件以上）	4件
⑧共同公開講座の実施（年5件以上）	2件
⑨健康増進事業の実施（期間中に10件以上）	
⑩自治体、地場産業、地場企業からの課題解決にかかる受託事業等（期間中に5件以上）	2件
⑪自治体、地場産業、地場企業とのWGの組成（期間中に5件以上）	2件
⑫施設・設備の共同利用による取組の実施（期間中10件以上）	
⑬初中等教育関連教材の開発（期間中に4本以上）	
⑭初中等教育関連支援活動の実施（期間中に10件以上）	
⑮留学生支援事業の実施（期間中に5件以上）	2件
⑯留学生交流事業の実施（期間中に5件以上）	2件

【目標8】 教育内容や方法を進化させ、教育の質を保証するため、社会の要請等に適応した教育実施体制の自己点検・評価を継続的に実施する。

《対応 8-1》 教育の質の保証と社会の要請の両方に応えるカリキュラムおよび授業内容になっているかの自己点検・評価のために、カリキュラムや授業方法に関わるFDを定期的(年に数回)に開催する。なお、一連のFDにおいては、第三者へのアンケート結果も重視する。

[illegible][illegible]

【所管所属 入試課】

評価指標	指標に係る目標
①NiAS セミナー（出前講義）の実施	①毎年度２０件以上
②体験学習の実施	②毎年度１０件以上
③研究室への訪問	③毎年度５件以上

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 9-1					

5.1.3 学生への支援

[illegible]

【目標10】 正課教育、正課外教育及び課外活動を通じた学修プロセスを重視し、学生によるアクティブラーニングの支援及び学修成果の可視化を行うことにより、学生の能動的な学修を支援する。

[illegible]

《対応 10-1》 正課教育に対する学修支援のために、Google Classroom や e-ラーニングなどの学修支援環境を整備する。

【所管所属：教務専門委員会、教務課】

《対応 10-2》 学生の学内外における学修成果の可視化と大学生活全般の記録および適切な指導のために、ポートフォリオシステムを活用する。

【所管所属：教務専門委員会、教務課】

《対応 10-3》 学生(個人やグループ)の正課外での学習活動を支援するために、物理的な学習スペース(学習支援センターや図書館内)と、それぞれの学習活動に活用できるネットワーク内の学習スペースを提供する。

【所管所属：教務専門委員会、教務課】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①学修支援環境の整備と科目内利用率	①全開講科目中 80%以上の利用率
②ポートフォリオの整備と利用率	②利用率 100%
③学習支援センターや図書館の利用者数	③20%増加
④学習支援に対する学生の満足度	④100%

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 10-1					
対応 10-2					
対応 10-3					

[illegible][illegible]

【所管所属 学生課】

評価指標	指標に係る目標
①「やってみゅーでスク」登録者数 ②表彰制度の設立 ③造大祭、オープンキャンパス等での広報	①年 10%増加 ②表彰制度の整備 ③周知されているとの評価を得る

■スケジュール

[illegible][illegible]

【所管所属 学生課】

【所管所属 学生課】

■スケジュール

5.1.4 入学者選抜方法

[illegible]

【目標17】 学部については、本学の強みや特色、社会的な役割を踏まえ、アドミッションポリシーに則した優秀な学生や留学生、女子学生を多元的に受け入れるため、大学入学希望者の多様な能力を評価する本学独自の選抜や入試広報の手法を構築する。

[illegible]

《対応 17-1》 海外協定校と連絡頻繁に取り、学生層の希望及び研究交流等図る。

【所管所属 国際交流専門委員会、国際班、別科】

《対応 17-2》 本学のアドミッションポリシーに基づき、多様な能力を多元的に評価する新たな入学者選抜方法の導入を検討する。

【所管所属 入試課】

《対応 17-3》 アドミッションポリシーが浸透し、本学を受験するような、多様なメディアの活用や、高校、高専の教員、志願者、保護者等へ直接アプローチする手法を駆使した質の高い広報の展開をする。

【所管所属 入試課】

《対応 17-4》 女子学生の修学意欲を湧きあがらせるようなカリキュラムの検討を行うとともに、十分な周知を行い女子学生の入学を推進する。

【所管所屬 入試課 教務課】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①海外協定大学、高等専門学校との遠隔会議システムなどによる情報交換の促進	①海外協定大学とは毎年 1 回以上、高等専門学校とは毎年 2 回以上
②入試制度別、高校種別の入学者の分析による新たな入試制度の導入	②志願者が入学定員の 2 倍以上
③ターゲットを絞った Web などによる大学最新情報の発信	③資料請求者が前年比 10%増加
④女子学生へのカリキュラムに関するアンケート実施（教務課）	④学生満足度の向上

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 17-1					
対応 17-2					
対応 17-3					
対応 17-4					

【目標18】 大学院修士課程については、問題解決のための基礎的素養を備えた学生を受け入れる。

《対応 18-1》 大学院への進学を促進するため、社会的背景、ニーズを入学時より継続的に理解させると共に、学部生の修学状況を分析し進学意欲を促す。

《対応 18-2》 志願者の増加を図るため、英語圏内学生の受入れに向けた、試験内容や講義科目の見直しを検討する。

《対応 18-3》 □ールモデルを提示するなど、博士課程へ進学意欲を促す、

5.2.1 研究水準及び研究成果への目標と対応

5.2.1 研究水準及び研究成果への目標と対応

【目標20】 競争的資金等の獲得を強化し、研究の質をより一層向上させるべく、研究論文等の質的、量的な充実を図る。

《対応 20-1》 学内研究費の重点配分等による支援により、論文数、科学研究費補助金の採択件数、外部資金獲得教員数を増やす。

《対応 20-2》 科研費等公的競争的資金獲得までの支援及び獲得後の支援体制を継続して強化し、応募資格者数に対する科研費申請件数の比率を上げる。

《対応 20-3》 査読付き学術論文の発表件数と国際学会における登壇数を増やす。

《対応 20-4》 特に若手研究者を中心とした独創的研究、挑戦的・萌芽的研究を推進し、期間中の科研費の採択、研究論文数等、外部資金の獲得等を増加させる。

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①応募資格者数に対する科研費応募件数	①前教員のうち 50%程度、ただし科研費若手への有資格者は 100%
②科研費の採択状況	②新規採択件数を全国平均と同等の年間 10 件程度とし、うち半数は 45 歳以下の若手とする
③その他外部資金の状況	③その他外部資金（受託研究費＋科研費を除く競争的外部資金＋共同研究費）の年額を 1 億円程度にする
④査読付き学術論文の発表件数	④各教員が第三期中に 3 件以上発表する
⑤国際学会登壇数	⑤各教員が第三期中に 2 件以上発表する

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 20-1					
対応 20-2					
対応 20-3					
対応 20-4					

5.2.2 研究实施体制

[illegible]

【目標22】 長崎唯一の基礎科学を重視する機関として、学際的且つ先端的な特色ある研究、真理を探究する研究、人類社会の持続的発展のための諸課題の解決を目指す研究をそれぞれ強化し、大学として重点研究とすべきプロジェクトの特定と研究助成推進体制の強化を行うと共に、若手研究員の研究環境向上とに取り組む

[illegible]

《対応 22-1》 新たな学際的研究領域を創出する融合的・総合的研究を推進するため、学長のリーダーシップによる組織的・横断的重点プロジェクト研究の推進及び次期プロジェクト研究に繋ぐ戦略的研究等を実施する。

【所管所属 研究連携推進本部会議、研究助成推進課】

《対応 22-2》 将来的に社会的インパクトが期待され、イノベーションにつながることで期待できる分野を特定し、当該分野への貢献度が高い研究者に対して強化支援経費を重点配分する。

【所管所属 研究連携推進本部会議、研究助成推進課】

《対応 22-3》 テニユア・トラック制度を積極的に活用し、若手教員に対する研究費の配分をより一層拡充し、研究意欲と研究の質の向上を目指す。

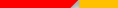
【所管所属】 研究連携推進本部会議、学務政策課、研究助成推進課

*テニユア・トラック制度：大学が若手研究者を、任期を定めて採用し、自立した研究環境で経験を積ませた後、実績を審査し、適格であれば専任教員として終身雇用する制度

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①テニユア・トラック制教員の採用状況	①すべての助教・講師に対してテニユア・トラック制を導入
②重点研究プロジェクトの指定数とその研究費規模	②平均して常時3～4プロジェクトを指定し、重点的に予算を配分

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 22-1					
対応 22-2					
対応 22-3					

[illegible][illegible]

【所管所属 国際交流専門委員会、国際班、教務課】

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 27-1					
対応 27-2					
対応 27-3					

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①留学生の事務体制の強化 ②在学生に占める留学生の割合 ③就職者数に占める留学生の割合 ④アセアン以外からの受け入れ態勢の整備 ⑤アセアン以外からの留学生の受け入れ ⑥国際共同研究の増加 ⑦国際シンポジウム、国際交流研修等の実施	①留学生数に応じた事務体制の強化 ②10%以上 ③10%以上 ④現地日本語教育機構、大学との交流，協定を年1件 ⑤留学生の5%以上 ⑥年1件 ⑦年2回実施

■スケジュール

対応	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対応 28-1					
対応 28-2					
対応 28-3					
対応 28-4					
対応 28-5					

【目標30】 教育の国際化及び研究の国際競争力強化のために、海外拠点の活用を含む海外大学との連携の高度化を推進するとともに、海外派遣及び留学生を含む海外からの受入れ学生数を増加させる。

《対応 30-1》 海外への教員の派遣や学生の留学および海外からの留学生の受け入れ、さらには長期インターンシップに対応するために、クォーター制(4 学期制)の導入を検討する。

《対応 30-2》 学部・大学院の学生を対象としたサマープログラム等の短期受入れプログラムを拡充させる。

【所管所属：学務政策課、国際班、工学研究科教授会、別科日本語研修課程、教務専門委員会、教務課】

評価指標	指標に係る目標
①クォーター制(4学期制)の導入検討 ②サマープログラムの準備と学生の受入	①2年以内での検討結果の報告 ②30人以上／年

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 30-1					
対応 30-2					

5.5.1 大学組織の見直し

【目標31】 常務理事会のリーダーシップの下、本学の強み・特色を最大限に生かし、機動的、効率的かつ外部の意見を活かした戦略的な組織運営を遂行する。

《対応 31-1》 迅速な運営を実現するため、理事と副学長の責任と権限を明確にした運営体制を整備するとともに、募集、教育・研究、社会貢献・国際交流等の各分野について重点とすべき業務等を精選し、収支状況等を見極めながら、人材、資金、スペース等の学内資源の重点配分を行う。

《対応 31-2》 監事・内部監査員との定期的な意見交換の場を設けるなど、監事のサポート体制を整備し、監事の業務が円滑に行われるよう支援体制を強化する。

《対応 31-3》 PDCAサイクルを基本として、各種業務を遂行できるように恒常的な組織運営の改善を行う。

《対応 31-4》 PDCAで業務を見直した結果の公表。

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①理事、副学長、学長補佐の役割の明確化	①毎年理事会等で業務分担の明示と達成状況の公表
②理事、副学長、学長補佐の業務評価の導入	②監事による業務評価の実施と評価内容の検討
③監事業務の円滑化	③監事業務の支援体制整備と人的配置見直し
④業務見直し体制の再構築	④自己点検評価委員会によるヒアリング結果に基づく業務改善

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 31-1					
対応 31-2					
対応 31-3					
対応 31-4					

5.5.2 教育研究組織の見直し

[illegible]

【目標34】 工業系大学としての個性・特色を明確にし、先進的かつ先導的な総合理工学研究を実施する教育・研究組織を確立する。

[illegible]

《対応 34-1》 本学の特色や強み、社会のニーズを踏まえ、第2期に改組を完了したコースの見直しに加え、工学部、総合情報学部の見直しを図るとともに、特色や強み、見直しの効果等の検証を継続的に行う。

【所管所属 学務政策課】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①コース制の導入効果の検証と改善策の検討 ②令和２年度に導入したコース横断型の教育プログラムの検証 ③教育プログラムをベースにした、本学の特色となる教育システムの確立	①導入目的の達成度の評価 ②入学者・在学生へのアンケートによる定量的な評価。新入生認知度８０％、卒業時満足度９０％。 ③コース横断型の教育プログラムの効果を検証し、学外の意見等も得ながら全学的に取り組む

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 34-1					

5.5.3 事務等の効率化・合理化

[illegible]

【目標35】 大学改革に対応するため、事務の効率化・合理化・高度化を推進する。また、職員の専門的知識や企画立案能力を向上させ、教職協働の実施体制を整備する。

[illegible]

《対応 35-1》 ICT 等を活用し業務の効率化を行うとともに、職員の役割や事務組織等を見直す。さらに、事務職員及び技術職員が教育職員とともに参画して各々役割に応じた能力を発揮する運営組織等の教職協働体制を整備する。

【所管所属 総務企画課】

《対応 35-2》 変化する大学業務に即応できる事務組織を実現するために、企画立案部門の強化や事務運営の改善と効率化の分析を行い、業務改善計画を策定して実施すること等により、事務処理の効率化・合理化を推進する。

【所管所属 総務企画課】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①勤務評価結果による人事配置の分析	①人材育成指標の作成、評価指標の整備
②時間外勤務状況の分析	②時間外勤務の削減の年度計画
③中期経営計画ヒアリング結果	③電子決済の検討・整備

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 35-1					
対応 35-2					

5.6.1 経常収支・資金収支の健全化

【目標 37】 経常収支を第 3 期中期計画の期間中に黒字化する。

《対応 37-1》 在学生の増加による学納金の確保、人件費の見直し、経常費補助金の対象事業の見直し、経常費の見直し等により、経常収支の黒字化を行う。

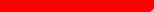
《対応 37-2》 資金収支については、予算策定時に毎年度、黒字になることを原則とする。

《対応 37-3》 長期借入金について、確実に返済する。

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①経常収支黒字化 ②予算策定時における資金収支の改善 ③長期借入金の確実な返済	①第3期中期計画期間中の経常収支の黒字化 ②予算策定時における資金収支の黒字化 ③返済計画に基づく確実な返済

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 37-1					
対応 37-2					
対応 37-3 (返済額)	74,976 千円	74,976 千円	72,728 千円	24,940 千円	6,695 千円

5.6.2 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加

[illegible]

【目標 38】 外部資金の積極的な獲得を推進し、自己収入を増加させる。

[illegible]

《対応 38-1》 外部資金の獲得や多様な資金調達による自己収入の確保等により、自律的・安定的な大学運営を行う。

【所管所属 研究助成推進課、財務課】

《対応 38-2》 外部資金獲得の増加に向けて、本学の研究シーズと地域及び企業ニーズとのマッチングを推進し、共同研究・奨学寄附金の平均契約・受入れ件数を増加させる。そのため、学長のリーダーシップの下、部局を越えた研究チームを編成し、全学的なテーマによる外部資金、寄附金の獲得プロジェクトを複数設け、学内の競争意識を高揚させるとともに、大学の人的・知的資源を最大限に活用し、外部資金の獲得を促進する。

【所管所属 研究助成推進課】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①自己収入（学生生徒納付金、手数料収入、寄付金収入、受託事業収入、施設設備利用料収入）の増加 ②外部資金の獲得額	①自己収入（学生生徒納付金、手数料収入、寄付金収入、受託事業収入、施設設備利用料収入）を、前年度比２％増加させる ②外部資金（受託研究費＋科研費を除く競争的外部資金＋共同研究費）の年額を１億円程度にする

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 38-1 (元年度決算比)	102.0 %	104.0 %	106.1 %	108.2 %	110.4 %
対応 38-2					

5.6.3 経費の抑制

[illegible]

【目標40】 教育研究活動や大学のミッション実現に資するため、学内資源配分を見直しや、経費の抑制を図る。

[illegible]

《対応 40-1》 教育研究活動や大学のミッション実現に資するため、学内資源の配分見直しや、経費の抑制を図る。

【所管所属 財務課】

《対応 40-2》 経営状況について、教職員全員の現状認識の共有化を図る。

【所管所属 財務課】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①予算における管理費用割合の削減	①前年度比 1.0%の削減 (令和元年度決算額を基準とする。)
②FD・SD 開催による決算説明会の実施	②説明会への全教職員の参加

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 40-1 (元年度決算比)	99.0 %	98.0 %	97.0 %	96.0 %	95.0 %
対応 40-2					

5.6.4 資産の運用管理

[illegible]

【目標41】 大学が保有する資産を適正に管理し、効率的な運用を行う。

《対応 41-1》 本学が保有する資産の不断の見直しに努めるとともに、有効利用を推進するため、学外利用が可能な学内施設等の情報をホームページ等で公開し、利用しやすい体制を整備するとともに、体育施設の開放等、教育・研究活動に支障のない範囲で、講義室、運動場などの施設の外部貸出を積極的に行う。

【所管所属 管財課、総務企画課企画 IR 広報班】

《対応 41-2》 学内の施設・設備について、共同プロジェクト研究事業等での共同利用を促進し、学内外者の利用を推進する。

【所管所属 研究助成推進課、管財課】

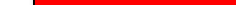
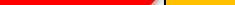
《対応 41-3》 校舎については、需要の有無を踏まえた上で、廃止を検討する。

【所管所属 管財課】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①利用者、団体の利用目的や満足度等に関するアンケート結果	①満足度が向上している
②外部評価	②有効に機能しているとの評価を得る
③貸し出し対象施設・設備の選定、規程の整備	③ホームページでの公表
④学内の施設・設備の学外利用回数と人数の増加	④利用回数の向上
⑤廃止対象となる校舎の選定、今後の活用有無を検討	⑤廃止する校舎の閉鎖実施

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 45-1					
対応 45-2					
対応 45-3					

5.7.1 自己点検の充実

【目標43】 毎年、各コースや所属からのヒアリング等を行うことにより、自己点検・評価等を着実に実施し、評価結果を教育、研究、社会貢献等の大学運営の改善に反映させる。

《対応 43-1》 毎年、決算後に各コースや所属からヒアリング等を行うことにより、大学における教育研究活動の質保証と改善に資する自己点検・評価等を着実に実施するとともに、大学の教育研究活動の状況を調査・分析し、それらの結果を教育研究の質の向上や大学運営の改善に活用する。

《対応 43-2》 監事監査及び内部監査における監査結果を反映した大学運営の改善に取り組み、PDCA サイクルを機能させる。

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①ヒアリング状況の公表 ②監事監査及び内部監査における監査結果を反映した、大学運営の改善	①ホームページへの掲載 ②改善状況のホームページでの公開

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 43-1					
対応 43-2					

【所管所属 総務企画課】

[illegible][illegible]

【所管所屬 管財課、研究助成推進課】

5.9.1 教育の質的転換

【目標 49】 現在の普通科を見直し、高大連携による 7 年間一貫教育コース等を新たに設置し、募集の強化、および総合科学大学への進学者増に努めます。

《対応 49-1》 高大連携による 7 年間一貫教育コース等を設置し、2021 年 4 月から募集を開始します。

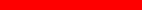
《対応 49-2》 高大連携による 7 年間一貫教育コースにおいては、高校 3 年目に、企業でのインターンシップを実施します。

《対応 49-3》 現在の普通科のカリキュラムを見直し、スポーツで進学を目指す生徒を支援できるコースを設置します。

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
① 7年一貫教育コース設置を募集活動に繋げる ② 大学の就職先企業を附属高校3年生に意識づける ③ スポーツマネジメントコースを設置	① 募集定員120名確保をめざす ② 募集定員確保及び、総科大進学者30名の確保を図る ③ 募集定員確保及び、総科大マネジメントコースへの進学増を図る

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 49-1					
対応 49-2					
対応 49-3					

5.9.2 地域社会との連携

[illegible]

【目標51】 東長崎地区の自治会等との連携による社会貢献に努めます。

[illegible]

《対応 51-1》 ボランティアとして本校生徒が携わることは貴重な体験でもあり、東長崎地区の自治会等との地域連携事業として連絡調整を行いながら本校生徒のボランティア参加を推進する。

【所管所属 附属高校】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①ＪＡ東長崎の年末餅つきに本校生徒がボランティアとして協力 ②日見ロードレースの実施、運営、競技参加	①野球部員１・２年生３４名が参加し、地域への貢献度向上を図る ②クラブ員４０名が参加し、地域への貢献度向上を図る

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 51-1					

5.9.3 グローバル化に対する対応

[illegible]

【目標 52】 グローバル化に向けた取り組みの推進を図る。

[illegible]

《対応 52-1》 附属高校では、人間形成はもちろんのこと、全ての教科において基礎学力の徹底した育成を行っているが、グローバル化する社会では、英語能力が必須のスキルとなりつつある。こうした中で、今後は、附属高校では、卒業時まで全員の英検3級以上の取得を目指す。また定期的な語学力測定のための試験を課すことで、語学力に裏付けされた国際的な視野や考え方を習得できるよう取り組む。

【所管所属 附属高校】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①英語検定の受験者を増やす	①年3回準会場として英検を実施 第2回を全校生徒に受験させる
②英語検定の合格者を増やす	②年に2回、英検合格の指標となる I B A検定を全校生徒に受験させる
③英単語能力の定着	③年に3回、本校独自の英単語能力テストを実施
④英語のコミュニケーション能力を（英会話力）を伸ばす	④情報教室に令和元年度に新設されたパソコンを使って、生徒個人がオンラインでネイティブ・スピーカーと英会話の授業を実施する

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 52-1					
対応 52-1					
対応 52-1					
対応 52-1					

5.9.5 自己点検・評価の実地

[illegible]

【目標 55】 附属高校の自己点検と評価を実施します。

[illegible]

《対応 55-1》 毎年度、附属高校の自己点検と、自己評価を実施します。

【所管所属 附属高校】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
毎年度、自己評価及び、学校評価を実施	評価の状況をホームページに掲載すると共に、必要な改善を行う

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 55-1					

5.9.6 情報公開の推進

[illegible]

【目標 56】 附属高校の情報発信の推進。

[illegible]

《対応 56-1》 附属高校のホームページを大幅に見直します。

【所管所属 附属高校】

《対応 56-2》 ホームページ以外の、ツイッター等での情報発信を検討します。

【所管所属 附属高校】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①大学と連携したホームページにし、大学と附属高校の情報提供	①情報の幅広い提供に繋げ、募集定員120名の確保を図る
②スマートフォン、ツイッター等での情報発信	②多くの人に情報提供し、募集定員120名の確保を図る

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 56-1					
対応 56-2					

【目標57】 東長崎地区における、生徒募集の強化を図るとともに、クラブ活動を通じて、県内外を問わず、優秀なアスリートの確保を図る。

《対応 57-1》 東長崎地区において、高大一貫教育の教育活動の紹介やボランティア活動等を通じた連携を通して、附属高校の校風を認識させ、生徒募集につなげていく。

《対応 57-2》 小中学生を対象としたスポーツ教室などを開催し、スポーツ交流を通じて、地域に貢献するとともに、生徒自身の成長にもつなげていきます。また、優秀なアスリートの確保にもつなげていきます。

5.10.1 安全管理に関すること

[illegible][illegible]

【所管所屬】 総務企画課、学務政策課国際班】

【所管所屬 管財課】

評価指標	指標に係る目標
①危険物による自己発生状況	①危険物による事故発生件数
②安全教育の実施状況	②安全教育の実施回数
③外部評価	③有効に機能しているとの評価を得る

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 59-1					
対応 59-2					

5.10.2 情報セキュリティに関すること

[illegible]

【目標 61】 情報セキュリティの確保及びその効率的な運用を図ることにより、
本学の情報資産を守るとともに、教育研究環境を向上させる。

[illegible]

《対応 61-1》 情報セキュリティの確保を図るため、ユーザ情報の安全性を向上させる方法として学内サーバの仮想化及び集約化と認証機構の統合を進める。また、運用の効率化と可用性の向上を図るため、堅牢な学内ネットワーク構成を目指した全学ネットワークシステムの更新を行う。

【所管所属 情報科学センター】

《対応 61-2》 IT ガバナンスを強化し、安心・安全な情報の運用管理を推進するため、情報基盤システムの管理体制整備、セキュリティ対策、学生・教職員に対する情報セキュリティの研修プログラム等の取組を行う。

【所管所属 情報科学センター】

《対応 61-3》 基本情報の適切な管理を行うとともに情報セキュリティの徹底と改善を進める。また、情報セキュリティに関連する法令遵守や情報管理についての内部監査を定期的に実施する。

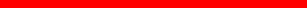
1) 基本情報の棚卸し、基本情報の重みづけを事務局中心に行い、適切な管理を進め、情報セキュリティの確保を図る。

【所管所属 情報科学センター 事務局長】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①FD、SDの開催状況 ②教職員向け丈夫セキュリティ分野の「IT予防接種」実施状況 ③センター関連規程の整備状況	①FD、SDの企画実施 年1回程度 ②「IT予防接種」実施 年1回程度 ③センター情報セキュリティ関連規程の整備

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 61-1					
対応 61-2					
対応 61-3					

5.10.3 法令遵守等に関すること

[illegible]

【目標62】 学内規則を含めた法令遵守を図り、適正な大学運営を行う。

[illegible]

《対応 62-1》 大学運営に係る内部監査を毎年度計画的に実施するとともに、監事及び会計監査人の連携を密にし、その結果を踏まえつつ、全学的な説明会や研修会において全教職員への法令遵守の周知・徹底を行い、意識の向上を図る。

【所管所属 総務企画課】

《対応 62-2》 監事との意思疎通を定期的に行い、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援するとともに、監査結果や意見については、学内で共有し、改善策を実施するなど業務の適正化や効率化に資する

【所管所属 総務企画課】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①コンプライアンス研修への参加状況	①コンプライアンス研修へ全員が参加できる 仕組み検討・実行
②研修（不正防止）への参加状況	②研修（不正防止）への全員が参加できる仕 組み検討・実行
③監査結果と対応状況の公開	③各年度のホームページでの公表

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 62-1		 	 	 	
対応 62-2					

5.10.4 男女共同参画推進に関すること

[illegible]

【目標64】 男女共同参画の意識の醸成や職員構成の多様化を促進するとともに、教育研究及び管理部門における立案及び決定への男女共同参画を推進する。

[illegible]

《対応 64-1》 優秀で多様な人材を確保するため、女性教育職員の採用をさらに促進し、女性教育職員の割合を引き上げる。また、意思決定プロセスにおける男女共同参画を推進するため、役員及び管理職に占める女性の割合を増加させる。

【所管所属 教育職員：学務政策課、役員及び管理職：総務企画課】

■評価指標と目標

評価指標	指標に係る目標
①女性役員数の状況	①女性役員数 20%
②女性管理職の状況	②女性管理職の割合 20%
③女性教員の状況	③女性教員の割合 20%

■スケジュール

対応	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
対応 64-1					